総合診療

採用施設一覧（◎は基幹施設、○は連携施設）

◎広尾病院
◎大久保病院
◎駒込病院
◎墨東病院
○多摩南部地域病院
○神経病院
◎多摩総合医療センター
◎多摩北部医療センター
◎松沢病院
○小児総合医療センター

研修プログラムの特徴

● 広尾病院（基幹施設）
東京都立広尾病院施設群総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合救急診療科　北村　亮
プログラム研修期間：3年：病院総合医養成コース　　4年：島医者養成コース

広尾病院は東京都島しょ地域の後方病院かつ、東京総合診療推進プロジェクトの研修施設としても位置づけられています。当プログラムでは家庭医、救急医、行政医の性格を併せもつ『島医者』を養成する4年コースと病院総合医、家庭医を養成する3年コース（希望により4年も可）があり、家庭医、救急医、行政医の性格をあわせもつ『島医者』や『病院総合医』、『家庭医』と様々な目標を持つ専攻医に合わせた柔軟な研修が提供できます。研修では総合救急診療科・病院総合診療科・救命救急センターの他、各専門内科、小児科での必修研修を行います。そして、産婦人科、整形外科、眼科、耳鼻咽喉科、皮膚科などの外来診療研修も準備し、まさに科にとらわれない総合診療医を目指します。地域で1人で自立できる学びを支えるワークショップや、レクチャーも豊富で海外研修も準備しています。研修を行う連携医療機関のうち、島しょ部や山間部のへき地医療機関では、診療以外に地域保健なども含めた地域医療を学ぶことができます。また都心部の一次医療機関でも、身近な医師患者関係を背景に総合診療のコアコンピテンシーを学ぶことができます。高次医療機関では専門性の高い研修も可能です。総合診療を極める上で最も整備された医療環境が用意されています。研修修了後は地域と病院で活躍できる病院総合医や家庭医はもちろんのこと、へき地診療や国際貢献などで活躍できる医師像が待っています。どっぷり浸かってみるだけの価値は保証付きです。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1年次	病院総合診療（内科）		内分泌内科	循環器内科			消化器内科		神経内科	呼吸器内科		腎臓内科
	内科全体で1年間の研修を行います。専門内科は希望にあわせ偏りのないよう研修を組みます。内科研修中も総合診療外来研修も行います。											
2年次	小児科			産婦人科			総合救急診療科（総合診療研修Ⅱ）					
	小児科、産婦人科では入院診療の他、乳幼児健診、妊婦検診なども学びます。総合救急診療科では病院総合医としての診療を学びます。											
3年次	島しょ診療所・病院もしくは山間部病院　（総合診療研修Ⅰ）											
	島しょ部もしくは山間部の診療所・病院での総合診療の実践、地域保健への参画などを行います。地域での役割を認識する1年となります。											
4年次	眼科		耳鼻科	救急科			皮膚科		内視鏡	整形外科		
	救急科では救命救急センターで3次救急とICU管理を主体に学びます。他、診療科では外来診療を中心に必要とされるスキルを学びます。											

● 大久保病院（基幹施設）
東京都立大久保病院総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　福田　達也　　プログラム研修期間：4年

東京都立大久保病院は、新宿・歌舞伎町という都内最大級の繁華街に位置し、外国人居住者や旅行者、独居高齢者、生活困窮者など、多様な社会背景を有する患者の診療を日常的に経験できることが大きな特徴です。疾患そのものだけでなく、言語や文化の違い、経済的問題、家族関係、医療アクセスの困難さなど、患者を取り巻くコンテクストを踏まえた診療能力が求められます。救急外来では軽症から重症まで幅広い症例を経験し、病棟では多疾患併存患者の包括的マネジメントを実践します。さらに、本プログラムでは関連施設での研修を通じて、都市部の急性期医療のみならず、外来・在宅医療、地域包括ケア、小児医療、救急医療、地域中核病院での診療など、多様な医療現場を経験することが

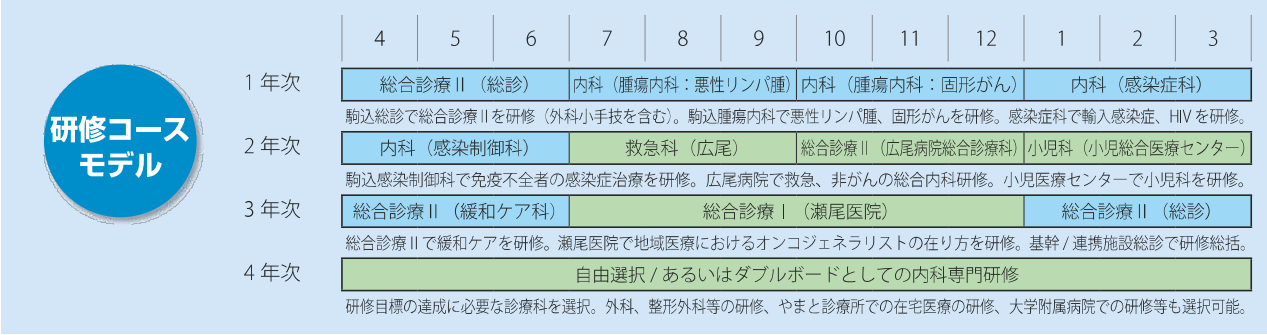
できます。それぞれ異なる地域特性や医療資源の中で診療にあたることで、場に応じて柔軟に対応できる総合診療能力を養います。都市型総合診療の最前線から地域医療の現場まで、多様な症候・疾患への対応力と、複雑な社会的課題に向き合う視点を身につけ、「病気だけでなく人を診る」総合診療医としての真の実践力を修得できることが、本プログラムの大きな魅力です。

● 駒込病院（基幹施設）
東京都立駒込病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　久保田　尚子　　プログラム研修期間：3年（～4年）

東京都立駒込病院は、各診療科の総合基盤を備えた、がんと感染症を重視した病院であると同時に、東京都区中央部医療圏の2次救急病院です。当院総合診療科は外来研修や病棟研修を通じて一般的な症候学や疾病を学ぶのみならず、専門診療科へのコンサルテーションを通じて、診断困難な症例へのアプローチをも習得できる場です。2次救急までの救急領域の研修も可能です。総合診療科を軸に腫瘍内科、緩和ケア科、感染症センター等とも協働し「がん診療に強い総合診療医、オンコ・ジェネラリスト」を目指す、「腫瘍総合診療プログラム」という位置づけです。

プログラムに自由度を持たせるために連携施設を拡大し、専攻医の将来ビジョン（病院総合診療医、家庭医、内科医、緩和ケア医、腫瘍内科医等）にあわせたローテイトを組むことが可能です。都立病院連携に加え、東京科学大学総合診療科、東京北医療センター総合診療科、台東区立病院、練馬光が丘病院、大泉生協病院、やまと診療所、瀬尾医院（広島県）とも連携しています。4年目も研修目標に応じて幅広く診療科を 選択して研修することが可能です。R8年度は総合診療→内科ダブルボード研修（4年で修了）も計画しています。



総合診療

墨東病院（基幹施設）
都立墨東病院総合診療科専門研修プログラム

プログラム責任者：感染症科　中村　ふくみ　　プログラム研修期間：4 年

都立墨東病院施設群総合診療科専門研修プログラムは病院、診療所などで活躍するための高い能力を有する総合診療専門医を養成することを目的として創設されました。その特徴は以下の通りです。

・人口 145 万人を抱える東京都区東部医療圏（墨田区・江東区・江戸川区）において最大かつ唯一の都立総合病院であり、高度救命救急センターを有する 24 時間 365 日の救急医療（東京 ER・墨東）、総合周産期母子医療センター、感染症やがん、難病医療も重要な柱として強力に地域医療を支える当院の総合診療基盤を、基幹施設として最大限に活用します。

・都内島しょや被災・復興地域を含む国内過疎地で地域医療、在宅診療を支える連携施設（岩手県一関市、陸前高田市、新潟県妙高市の各医療機関）での計 12 ヶ月の研修が行えます。

・4 年コースにより内科 12 ヶ月、小児科 3 ヶ月、救急 3 ヶ月、総合診療 I 、II 合計 18 ヶ月以上の必修研修 + 個々の希望やニーズに応じた選択研修も十分な余裕があります。

・多彩な施設群での研修によりさまざまな現場を体験する中で、総合診療の意義を体感し、救急に強く多様なステージで力を発揮できる骨太の総合診療医を目指します。

・病院総合診療医として、臓器・領域別の専門医や院内外の様々な部署、機関とも連携を図りながら患者さんの全人的・総合的な問題解決を図るノウハウを習得できます。

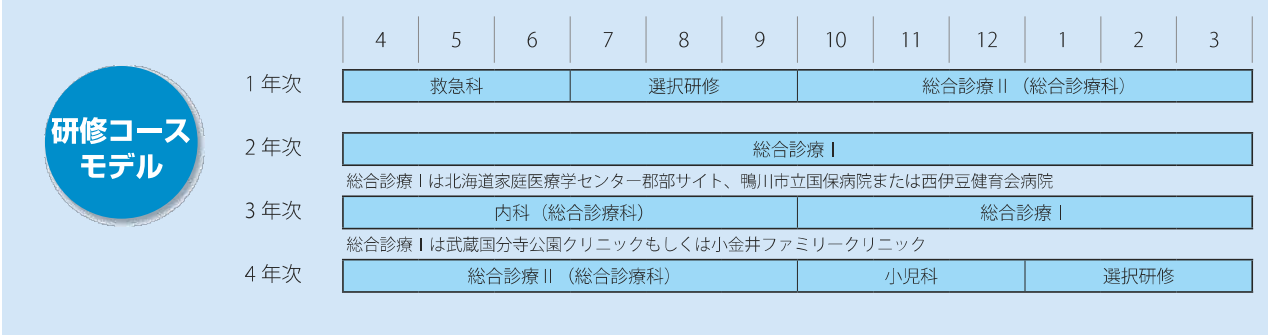
研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	内科			内科			内科			救急科		
2 年次	内科			放射線科・整形外科・産婦人科			小児科			総合診療専門研修 II		
3 年次	皮膚科・耳鼻科・泌尿器科			総合診療専門研修 II（聖母病院）			総合診療専門研修 I（島しょ等）			総合診療専門研修 I（都内連携施設）		
4 年次	総合診療専門研修 I （都外連携施設）									総合診療科		

多摩総合医療センター（基幹施設）
多摩総合医療センター施設群総合診療科東京アカデミー専門研修プログラム

プログラム責任者：救急・総合診療科　村田　研吾　　プログラム研修期間：4 年

東京西部の多摩地域を中心とした、都市部における医療施設で研修プログラムを提供します。拠点と成る東京都立多摩総合医療センターは、多摩地域における基幹総合病院であり、幅広い年齢層に対する一般外来診療・救急診療・入院診療をほぼ全診療科に渡り提供しています。幅広い健康問題に対して向き合う環境にあり、総合診療研修に適しています。人に起こる多様な問題に対して、その臨床現場のコンテクストに沿って対応できる臨床医の育成を基本理念としています。本プログラムでは、小児期については小児総合医療センターと連携、成人については多摩総合医療センター救急・総合診療科を中核とし、各診療科との連携で症例経験を得ることが可能です。さらに通院困難者・高齢者においては近隣医療機関や東京都島しょの施設と連携し、在宅医療もフィールドに含み、医療を展開します。生物科学的な観点だけでなく、ライフサイクルイベントに配慮し、家族関係・心理社会的な観点からもアプローチを行うことが可能な医師の育成を図ります。この中で、他職種ともチームを形成し、連携することで、調整・統括業務が可能となるよう、コミュニケーションスキルの向上とともに、チームビルディングの実際を経験できる環境を提供します。各診療科での指導とともに、2-3 ヶ月に 1 回の定期的な面談、ポートフォリオ指導・勉強会、ER ランチョンレポート（臨床推論指導）、家庭医療勉強会（家庭医療のコア内容・診療科 / チーム運営に必要なマネジメントスキルなどを指導）等により内容を補完します。



● 多摩北部医療センター（基幹施設）
多摩北部医療センター総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　金井　貴夫　　プログラム研修期間：3～4年

多摩北部医療センターを基幹施設とする、東京都北多摩北部医療圏（人口約74万人）中心の総合診療専門医育成を目的とした研修プログラムです。当院は医療圏の中心的な急性期病院であり、北多摩北部医療圏・近隣医療圏にある連携施設とともに研修を行い、必要に応じた可塑性のある、地域医療にも貢献できる総合診療専門医を目指せます。

将来、総合診療医として活動する場に応じて、診療所に比べて主に病院での研修に重点を置く研修（病院重点）や病院に比べて主に診療所での研修に重点を置く研修（診療所重点）など、多様なローテーションを組み立てることができます。

なお、内科とのダブルボードを希望する者はさらに1年間の内科研修を付加することができます。

上記の様に多くの施設と連携を組んでおり、基幹施設である多摩北部医療センターと連携施設との3年間で、総合診療専攻研修において求められる7つの資質・能力（包括的アプローチ、一般的な健康問題に対する診療能力、患者中心の医療・ケア、連携重視のマネジメント、地域包括ケアを含む地域志向アプローチ、公益に資する職業規範、多様な診療の場に対応する能力）を効果的に習得することができます。

症例をある時点で経験するということだけではなく、主治医として、初診、入院から退院、外来通院まで可能な範囲で経時的に、診断・治療の流れを通じて、一人一人の患者の全身状態、社会的背景・療養環境調整をも包括する全人的医療を実践します。

総合診療

松沢病院（基幹施設）
松沢病院総合診療専門研修プログラム

プログラム責任者：総合診療科　島田　恵　　プログラム研修期間：3 年

東京都立松沢病院は、約 140 年の歴史を持つスーパー精神医療センターであり、身体合併症を持つ様々な精神疾患患者の診療を内科や外科、整形外科等の診療科と精神科の専門医師たちが中心になって 1 つのチームとして対応する総合診療体制を組んでいます。精神科と総合診療科は患者の社会的な背景も含めて全人的な医療を行う点で共通する部分も多いため、病院から在宅まで広く活躍する総合診療医を育成する体制が整っています。特に、精神疾患を持つ方の全人的医療・ケアについては、地域の診療では大きな課題であるにも関わらず、総合診療的な視点から学べる施設はほとんどありません。これらの利点を生かし松沢病院では、心のケアに強い総合診療医を育成すべく新たな総合診療の研修プログラムを立ち上げました。

研修コースモデル

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
1 年次	総合診療 Ⅱ（松沢病院）						総合診療 Ⅱ（松沢病院）			救急（都立広尾病院）		
	4－9 月は松沢病院で身体合併症医療を中心とした診療、10－12 月は小児、1－3 月は救急研修を行う。											
2 年次	精神科（松沢病院）						小児科（都立小児総合医療センター）			総合診療 Ⅱ（広尾病院）		
	4－9 月は松沢病院で精神科のみの研修、10－3 月は広尾病院で総合診療 Ⅱ の研修を行う。											
3 年次	総合診療 Ⅰ（佐渡総合病院または高山赤十字病院）			総合診療 Ⅰ（佐渡総合病院または高山赤十字病院）			内科（松沢病院）					
	4 － 9 月は佐渡総合病院または高山赤十字病院で総合診療 Ⅰ の研修、10 － 3 月は松沢病院で内科研修を行う。											